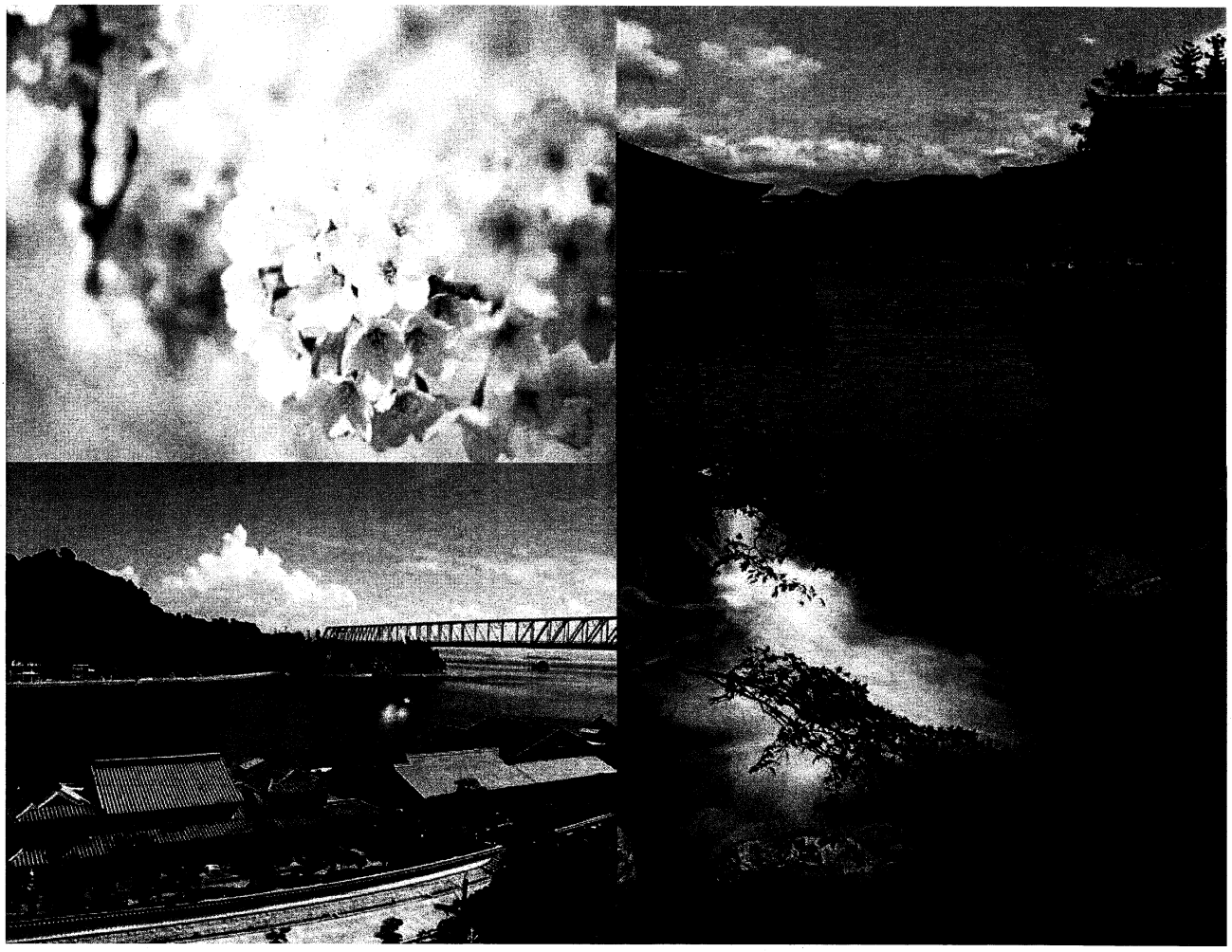
広島県

自然災害に関する防災教育の手引

～主体的に行動する態度を育成するために～



平成25年3月

広島県教育委員会

はじめに

東日本大震災から２年が経過しようとしています。

被災地では着実に復旧・復興が進んでいる一方，今なお，近隣の学校を間借りしたり，プレハブの仮設校舎で学んだりと，不自由な思いをして生活を送っている学校もあると聞きます。

また，家族や友人を失った子どもたちが多数おり，その心の痛みに対するケアに，今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

文部科学省は，平成24年１月，地震発生時の子どもの避難状況や教職員の対応等についての課題を把握するため，岩手県，宮城県，福島県，仙台市の教育委員会とともに，３県１市の全ての学校等を対象とした「東日本大震災における学校等の対応等に関する調査研究」を実施し，平成24年５月に，その結果を公表しました。

また，平成24年７月には，「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」の最終報告を公表しました。

これらの調査研究等から，日常の訓練が避難時に生かされたとする一方，危機管理マニュアルの作成，児童生徒の帰宅方法，保護者等への引渡し方法，学校待機時の対応などについて様々な課題が明らかとなりました。

これらのことを受け，広島県教育委員会では，今年度，主に次の取組を進めました。

１　学校安全担当者を対象とした危機管理マニュアル作成に向けた研修の実施（「学校防災マニュアル（地震･津波災害）作成の手引（平成24年３月文部科学省）」を活用）

２　広島地方気象台との連携による緊急地震速報を用いた実効性のある避難訓練の実施

３　自然災害等の危険に際し主体的に行動する態度の育成を目指すこの「自然災害に関する防災教育の手引」の作成

広島県においても，陸域の浅い場所で発生する地震や，安芸灘周辺等，瀬戸内海西部のやや深い場所で発生する地震，南海トラフ沿いで発生する地震のほか，いつ発生するか分からない様々な災害に備える必要があります。

この手引では，各教科・領域での防災教育の指導案を紹介しています。各学校においては，この手引を活用した防災に関する指導を通して，子どもたちを災害から守る体制づくりを推進してください。

この防災教育の取組が，自然災害への危険回避にとどまらず，子どもたちの「主体的に行動する態度」の育成，更には「自らの命を守り抜く力」をはぐくむことにつながっていくことを願います。

平成25年３月

広島県教育委員会
教育長　下﨑邦明

目　　次

１　広島県自然災害に関する防災教育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　小学校指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

３　中学校指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１９

４　高等学校指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７

５　特別支援学校指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４３

関係資料

（１）津波防災啓発ＤＶＤ「津波からにげる」及び

「学校における緊急地震速報対応行動訓練実施手引書」・・・・・・・・・・・・・・４９

（２）緊急地震速報・津波警報等について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１

（３）「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議」

最終報告・・・７９

（４）「東日本大震災の被害を踏まえた学校施設の整備について」

緊急提言等・・９１

（５）「家族で学ぶ防災教室」の実施について

・・１０５

1　広島県自然災害に関する防災教育について

平成 23 年 3 月 11 日，東日本大震災で，近年まれにみる大津波が東北地方沿岸部を襲い，多くの人々の尊い命や，かけがえのない日常生活を奪い，幸せをも奪った。

そのような中，震災前からの防災教育の学習により，児童生徒の瞬時の判断が行動に結び付き，自ら命を守りきった学校があった。津波を経験したことがない小中学生が，学校で学んだ津波の学習を思い出し，主体的な判断による避難行動で津波を逃れ，また，多くの幼児や地域の方々までも避難場所である高台へ誘導し，難を逃れている。いわゆる『釜石の奇跡』である。

このことは，まさしく，学校における防災教育の最大の効果であるといえる。

本県においても，『釜石の奇跡』に学んで，児童生徒に自然災害等の危険に際して，主体的に判断・行動し，自分の命を自分で守り抜く力と，将来，地域のリーダーとして主体的に防災活動を進めていく態度を育成するため，より一層の防災教育を進めていく必要がある。

1　防災教育の目標

（1） 自然災害の発生メカニズムをはじめ，地域の自然環境，災害や防災についての基礎的・基本的事項を理解できるようにする。

（2） 災害時における危険を認識し，日常的な備えを行うとともに，状況に応じて的確な判断の下に，自らの安全を確保する行動ができるようにする。

（3） 災害発生時及び事後に，進んで他の人々や集団，地域の安全に役立つことができるようにする。

2　防災教育の内容

学校教育においては，生涯にわたる防災対応能力の基礎を育成するために，避難訓練だけでなく，学校の教育活動全体を通しての体系的な防災教育が必要である。

防災教育の内容について体系的に整理すると，次の４点になる。

① 地震・津波を知る。

② 対処行動を知る。

③ 地域の自然災害の被害や特徴を考える。(先人の経験に学ぶ)

④ 地域の安全な社会づくりに貢献する態度を身に付ける。

これらを踏まえ，発達段階別の基本とする目標と学習指導要領等を踏まえた防災教育に関連する指導内容を整理すると次のとおりとなる。

（1） 小学校

【低学年】

〔目標〕

教職員や保護者など近くの大人の指示に従うなど適切な行動ができるようにする。

〔内容〕

各教科	**〈生活科〉** ○地域の人々と適切に接し安全に生活する。 ○公共物や公共施設を大切にし，安全に気を付けて利用する。

道徳	○健康や安全に気を付けた生活をする。 ○生命を大切にする心をもつ。
特別活動	**〈学級活動〉** ○心身ともに健康で安全な生活態度を形成する。 **〈学校行事〉** ○防災訓練において，災害に応じた行動ができるようにする。

【中学年】

〔目標〕

災害の時に起こる様々な危険について知り，自ら安全な行動ができるようにする。

〔内容〕

各教科	**〈社会〉** ○地域社会における災害や事故から人々の安全を守る工夫や努力について考える。
道徳	○生活を支えている人々や高齢者を尊敬し感謝する。 ○生命あるものを大切にする。
特別活動	**〈学級活動〉** ○心身ともに健康で安全な生活態度を形成する。 **〈学校行事〉** ○防災訓練において，避難の方法について理解し安全に行動できる。
総合的な学習の時間	**〈活動例〉** ○地域の防災マップを作成し，防災意識を高める。 ○地域の災害を調査し，学習する。

【高学年】

〔目標〕

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し，安全な行動ができるようにするとともに，自分の安全だけでなく，他の人々の安全にも気配りができるようにする。

〔内容〕

各教科	**〈社会〉** ○わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について考える。 **〈理科〉** ○気象現象や流れる水の働きの規則性について考えをもつようにする。 ○土地のつくりと変化〈火山と地震〉について考えをもつようにする。 **〈体育〉** ○けがの防止について理解するとともに，簡単な手当ができるようにする。 **〈家庭〉** ○身の回りを快適に整えることができるようにする。
道徳	○自他の生命を尊重する。 ○働くことの意義を理解し，公共のために役に立つことをする。
特別活動	**〈学級活動〉** ○心身ともに健康で安全な生活態度を形成する。

	〈児童会活動〉 ○委員会活動や集会活動において安全意識を高める。 ○ボランティア活動を行う。 **〈学校行事〉** ○防災訓練において，安全な避難行動ができるとともに，初期消火など二次災害の防止ができるようにする。
総合的な学習の時間	**〈活動例〉** ○地域の自然環境について体験的な学習をする。 ○地域の災害の歴史を調査し，防災対策について学習する。 ○応急手当の実習をする。 ○防災ボランティアについて調査し，体験する。

（２） 中学校

〔目標〕

地域の過去の災害や他の地域の災害例から危険を理解し，災害への日常の備えや的確な避難行動ができるようにする。また，学校，地域の防災や災害時のボランティア活動の大切さについて理解を深めるようにする。

〔内容〕

各教科	**〈社会「地理的分野」〉** ○日本の国土の特色（自然災害が発生しやすく防災対策が重要である等）について理解する。 ○身近な地域及び各県の地域的特色として，様々な災害について調査する。 **〈社会「公民的分野」〉** ○個人と社会とのかかわり（ともに生きる社会）について考える。 **〈理科「第２分野」〉** ○様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解する。 ○天気とその変化について理解する。 **〈保健体育「保健分野」〉** ○自然災害による傷害は，災害発生時だけでなく，二次災害によっても生じることについて理解する。 ○自然災害による傷害の多くは，災害に備えておくこと，安全に避難することによって防止できることについて理解する。 ○応急手当を適切に行うことができるようにする。 **〈技術・家庭「家庭分野」〉** ○簡単な日常食の調理ができるようにする。
道徳	○かけがえのない自他の生命を尊重する。 ○奉仕の精神をもって，公共の福祉と社会の発展に努める。
特別活動	**〈学級活動〉** ○心身ともに健康で安全な生活態度や習慣を形成する。 ○ボランティア活動の意義を理解する。 **〈生徒会活動〉** ○学校生活の充実や改善向上を図る活動を行う。 ○ボランティア活動を行う。

	〈学校行事〉 ○地域と連携した実践的な防災訓練を実施する。 ○ボランティア活動など社会奉仕の精神を培う活動を行う。
総合的な学習の時間	**〈活動例〉** ○地域の自然環境について体験的・探求的な学習をする。 ○地域の災害の歴史を調査し，防災対策について学習する。 ○地域の発生メカニズムなどを研究する。 ○応急手当及び救急法の実習を行う。 ○防災ボランティアを調査し，体験する。

（３） 高等学校

〔目標〕

自らの安全の確保はもとより，友人や家族，地域社会の人々の安全にも貢献しようとする態度等を身に付ける。また，社会における自らの役割を自覚し，地域の防災活動や災害時のボランティア活動にも積極的に参加できるようにする。

〔内容〕

各教科	**〈公民「倫理」〉** ○現代に生きる人間の倫理（人間の尊厳と生命への畏敬，自然や科学技術と人間のかかわり）について理解する。 **〈地理Ａ〉** ○我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解する。 **〈理科「理科総合Ｂ，地学Ⅰ，Ⅱ」〉** ○プレートの動きによる大地の変動について理解する。 ○地球の内部（火山と地震）について理解する。 **〈保健体育「保健」〉** ○応急手当の意義を理解し，適切に行うことができるようにする。 **〈家庭科「家庭基礎，家庭総合，生活技術」〉** ○高齢者介護の基礎を学ぶことを通して，災害時要援護者等への支援の必要性について認識する。 ○健康や安全に配慮した住生活の管理ができるようにする。 **〈専門学科〉** ○工業・農業・福祉等の専門学科で扱うことが考えられる。
特別活動	**〈ホームルーム活動〉** ○ボランティア活動の意義を理解する。 ○生命の尊重と安全な生活態度や習慣を確立する。 **〈生徒会活動〉** ○学校生活の充実や改善向上を図る活動を行う。 ○学校行事への協力を行う。 ○ボランティア活動を行う。 **〈学校行事〉** ○地域と連携した総合的な防災訓練を実施する。 ○ボランティア活動など社会奉仕の精神を培う活動を行う。

総合的な学習の時間	**〈活動例〉** ○地域の自然環境，災害の歴史と対策について調査・研究する。 ○地震活動や地震の発生メカニズムについて科学的に調査・研究する。 ○世界の災害や危機管理について調査・研究する。 ○応急手当及び救出法を実習する。 ○防災ボランティアを調査し，体験する。

（4） 特別支援学校

〔目標〕

障害のある児童生徒等については，障害の状態，発達の段階，特性等及び地域の実態等に応じて，自ら危険な場所や状況を予測・回避したり，必要な場合には援助を求めたりすることができるようにする。

〔内容〕

特別支援学校学習指導要領に基づき，視覚障害者，聴覚障害者，肢体不自由者又は病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては，児童生徒の障害の特性を考慮しつつ，小学校，中学校及び高等学校に示す内容を，各教科等において適切に取り扱う。

また，知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては，児童生徒の知的障害の状態や経験等に応じて，様々な生活場面に即した具体的な指導内容を設定し，各教科等及び各教科等を合わせた指導において，実践的に取り扱う。

3　防災教育の指導上の留意点

各学校においては，児童生徒が自然災害等の危険に際して，自らの命を守り抜くため，主体的に行動する態度を育成するとともに，進んで地域の安全活動に参加するなど，安全で安心な社会づくりに貢献する意識を向上させることが必要である。

これらのことを踏まえ，指導に当たっては，次の点に留意しなければならない。

（1） 授業の中で話し合いの場を仕組み，理解の促進を図る。

災害に対する危険を予測する力や災害時のとっさの判断などは，その発生メカニズムが基礎知識として理解されていないと機能しないであろう。地震はどのようにして起こるのか，津波の到達時間はどれくらいかなど，発達段階に応じて理解させることが求められる。

特に，生活の中での様々な場面を設定したり，授業の中で話し合いの場を仕組んだりすることで，友だちの意見と比較させ，自分の考えをはっきり持たせるなど，具体的な行動の根拠についての理解を深めさせることが大切である。

（2） 知識の習得と実践を組み合わせた実効性のある指導内容とする。

学習後，緊急地震速報を活用した避難訓練を実施したり，防災センターなどの関係機関を利用したりするなどして，獲得した知識と行動とを結び付け，訓練→評価→改善を繰り返すことで，実効性のある指導を進めることが大切である。

（3） 地域での活動を組み込み，安全な社会づくりに貢献する態度の育成につなげる。

地域でのフィールドワークを通して，過去の災害の言い伝えから学んだり，地域の様々なボランティア活動に参加したりするなどして，安全な社会づくりに貢献する態度の育成につなげていくことが大切である。

2　小学校指導案

（瀬戸内海）

小学校　２年生　学級活動

心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇　本時の目標　　地震の対処行動について考えることができる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　地震の経験について話し合う。	◇東日本大震災について知っていることを発表させる。	
2　避難訓練の反省をする。 ・緊急地震速報を聞き，適切な対応行動をとることができたか。 ・適切な避難行動を開始することができたか。	◇机の下にもぐり，机の脚を持って頭を守ることができたか。 ◇「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」ができたか。	・避難行動のルールを理解することができる。（行動観察）
3　学校以外のところで地震が起こったら，どうするか考える。 ・バスから降りて歩いているとき ・友だちと室内で遊んでいるとき ・外でなわとびをして遊んでいるとき ・遊びに行っているとき	◇具体的な場面を設定して考えさせる。 ・外にいるときには，物が落ちたり倒れたりしない場所，また，車が来ない所でしゃがんで地震のおさまるのを待つようにさせる。 ・室内にいるときは，物が落ちたり倒れたりしない所，または，テーブルの下などでしゃがんで地震のおさまるのを待つようにさせる。	
4　地震がおさまったら，どうするか考える。	・地震がおさまったら，声をかけ合って無事を確かめる。 ・困った時は大人に助けを求める。	・地震がおさまった後の危険や，避難する時に注意しなければならないことが理解できる。（発表）
5　家に帰ったが家がこわれている。だれもいない。そんなときにどうするか考える。 ・その場で家族の帰るのを待つ。 ・緊急避難場所に避難する。	◇自分で判断して適切な行動をとれるようにさせる。 ・災害用伝言板１７１を紹介する。	
6　緊急避難場所を家族と確認したものについて発表させる。	◇地震が起こったときの家族の行動と緊急避難場所については，事前に保護者と確認させておく。	・大人に伝えることの大切さが理解できる。（発表）
7　緊急避難場所に行くとき，気を付けることについて話し合う。 ・できるだけ複数で行動する。 ・危険な所を避けて歩く。（川，塀の近く，山などで崩れているところ） ・着いたら，家族が来るのを待つ。ほかの場所に行かない。	◇避難訓練の反省と気を付けることとが結び付くように意識させる。	
8　まとめをする。	◇今後日常的に気を付けることを自己決定させる。	

じしんはっせい！その日にそなえる

地震
発生

さいがい時れんらくカード	
なまえ	
じゅうしょ	
ほごしゃのれんらくさき	
生年月日	
けつえきがた(　)わかれば	

ばめん	ひなんばしょ
学校	
家	
ならいごと	
買いもの先	
遊びに行っている時	
へやで遊んでいる時	
外で遊んでいる時	
(　　)	

小学校　３年生　学級活動

心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇　本時の目標　　避難のための津波の正しい知識を得るとともに，いざというときのための津波に対する日頃からの備えについて学ぶ。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　本時の学習課題を確認する。 ○地震・津波が起こったとき，どうすればいいか，釜石の子どもたちから学ぼう。	◇東日本大震災や身近な災害についての話題から，大地震・津波がいつ起こっても不思議ではないということ，自分たちが住んでいる佐木島にいつ津波が押し寄せてくるかわからないことを認識させる。	
2　「津波からにげる」を視聴する。	◇津波は地震が大きな被害をもたらすことを伝える。 ◇鵜住居小学校の子どもたちがどのようにして助かったのかを事実に沿って視聴させる。	
3　ワークシート「釜石の子どもたちはどうやって津波からにげた？」を書き，発表する。	◇アニメーションで視聴した津波から逃げるための意識を定着させる。	・子どもたちが津波からどうやって逃げたかをつかんでいる。 （ワークシート・発表）
4　ワークシート「津波クイズ」をして，答えを確認する。	◇津波に関する基礎知識を理解させる。	・津波に関する基礎知識を理解している。 （ワークシート）
5　佐木島に津波が押し寄せてきたとき，どうするかを考える。	◇自分たちが住んでいる佐木島に津波が押し寄せてきたとき，自分はどうするのか，課題を整理し，解決策や対応策を自己決定させる。 ◇家族と津波について話し合うようにさせる。	・避難のための津波の正しい知識を得て，日頃の備えについて学んでいる。 （発表）

資料（出典名）　「津波からにげる」ＤＶＤ（気象庁），「津波からにげる」津波防災ハンドブック

小学校　４年生　学級活動
心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇　本時の目標　　地震や火事などの危険を認識し，日常的な備えを行うとともに，状況に応じて，的確な判断のもとに，自らの安全を確保するための行動ができる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　東日本大震災の写真等を見る。	◇９月１日が防災の日であったことを伝えてから，大震災による被害の状況写真やニュース映像などのＶＴＲを見せて，地震による被害の大きさをつかませる。 ◇日本が有数の地震国であることから，地震は遠いところの話ではなく，自分たちの住む地域で起きても不思議はないことを伝え，緊張感をもたせる。	
2　本時の課題を知る。	学校で大きな地しんが起きた時，安全にひなんする方法を考えよう。	
3　学校で過ごす１日の中の様々な場面を設定し，避難方法について考える。	◇グループごとに条件を変えて，危険なことは何か，安全に避難するにはどうするかを話し合わせる。（場面設定は，絵カードで示す。） ・大きな木が立っている中庭で休憩中 ・理科室でアルコールランプを使って実験中 ・窓ガラスをふいたり，机を下げてほうきで掃いたりしている掃除中 ・家庭科室でお楽しみ会の調理中	
4　グループごとに考えた避難行動を発表し合う。 5　発表後に，気付きや感想を話し合う。	◇自分たちが考えた危険なものや場所をカードに書かせて，劇での発表練習の時間を十分にとる。 ◇発表を見る側の児童には，他に考えられる危険なところはないかを考えながら見るように事前に伝えておく。 ◇なぜ，その避難行動がいいのか理由を考えさせる。	
6　本時の学習のまとめと振り返りをする。 7　次時の予告をする。	◇日常的に意識しておくことを板書にまとめる。 ◇様々な状況を想定し，危険なものを見つけ，そこから逃げる方法を日ごろから考えておくことの大切さを伝える。 ◇振り返りを書かせ，どういうことに気を付けるのか自己決定させる。 ◇消防署見学で消火体験をしたり，防災についての話を聞いたりすることを伝える。	・日頃から地震や火事に対して安全に避難するためのポイントを記述している。 （ワークシート）

小学校　５年生　社会

わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について考える

◇　本時の目標　　水害の写真を読み取ったり，それに対する対策を考えたりする活動などを通して，呉市で起こった水害の様子について調べ，それに備える活動の大切さに気付くことができる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　水害の恐ろしさを写真から読み取る。 ○「この写真は，いったいどこを写したものだと思いますか。」 ○　「この写真は，今から８年前に台風の被害を受けた呉市の写真です。」	◇平成１６年の台風１８号の被害写真を提示し，身近に大きな自然災害が起きていることに気付かせる。 ◇写真の感想を簡単に発表させる。	
2　本時の学習課題を確認する。	呉市の水害にはどんなものがあり，水害に備えるため，どんな準備をすればよいだろう。	
3　呉市で過去に起きた水害や，それに対する対策について調べる。 ○「呉市では，過去にどんな水害が起きたのでしょうか。」 ○「呉市では，水害に対して様々な対策をとっています。」 ○「なぜ，これだけの対策をとっているのでしょうか。」	◇吉浦で起きた代表的な災害の写真や資料等を提示しながら，水害への関心が高まるようにする。 ◇児童が事前に調べてきたワークシートを使って発表させる。 ◇水害による被害の実態については，いたずらに子どもの恐怖心をあおることがないように配慮する。 ◇呉市が発行しているハザードマップを提示し，身近なところで対策が練られていることを理解させる。 ◇吉浦の土砂被害を受けて，砂防ダムが作られたことを押さえる。	
4　自然災害に備えるため，自分たちはどのようにしていけばよいかを考える。 ○「今後，水害に備えるためどんなことをしようと思いますか。」	◇自分の家からどこに避難すればいいのかを確認し，避難場所までの避難経路を吉浦の地図に書き込ませる。	・呉市の水害に対して関心をもち，災害に対する備えについて具体的な方法を考えようとしている。 〔関心・意欲・態度〕 （ワークシート，発表）
5　本時を振り返り，次時の学習について確認する。	呉市でも水害はいつ起きてもおかしくないので，水害に備え，日頃から意識を高めておくことが大切だ。	

資料（出典名）

・平成１６年台風１８号の被害写真（呉市防災センター　ホームページ）

・６．２９豪雨災害写真集　がけ崩れ災害編（広島県広島土木建築事務所）

小学校　５年生　社会

わが国の国土の環境と人々の生活や産業との関連について調べる

◇　本時の目標　我が国で起こる自然災害について調べ，我が国は国土の地形や気候とのかかわりで自然災害が起こりやすいことに気付くことができる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　自然災害について知っていることを出し合う。 ○地　震…阪神・淡路大震災 ○大　雨…台風の被害　梅雨の大雨 ○その他…津波，火山の噴火，地滑り	◇阪神・淡路大震災の写真を活用しながら，日本では大きな地震が起こっていることに気付かせるようにする。 ◇写真資料や地図をもとに，地震や大雨など日本では，さまざまな災害が発生していることに気付かせ，災害の恐ろしさを想起させる。 ◇報道などでほかの災害などを聞いたり，見たりした経験がないのか話し，災害の発生について関心をもたせるようにする。	
2　課題を確認する。 なぜ，日本では多くの自然災害が起こるのだろう。		
3　日本は地震が多い国であることについて資料を使って調べる。 ○阪神・淡路大震災 平成７年１月17日　死者6,400人以上 ○東日本大震災 平成23年３月11日死者15,000人以上	◇地図から日本は，阪神・淡路大震災や東日本大震災のように，地震が多い国であることを理解させるようにする。 ◇地震が起こったときにどのような被害が発生したかも考えさせる。 ◇ほかの大雨や洪水，津波などの災害も多いことに気付かせ，次につなぐ。	・我が国で起こる自然災害について関心をもち，その発生と国土の地形や自然条件とのかかわりについて調べている。 〔関心・意欲・態度〕 （観察・ワークシート）
4　日本で起こる災害は，国土の地形や気候と関係があるのか話し合う。 ○日本は海に囲まれているため，水による被害が多い。 ○台風や梅雨などの影響があるため大雨となり，洪水や土砂崩れなどが起こる。 ○雪害や冷害などがある。 ○震源地や火山が多いため地震が発生しやすい。	◇大雨や洪水，台風，津波などの自然災害にも目を向けさせ，日本で起こる災害は，国土の地形や気候と関係があることに気付けるようにする。火山噴火の影響や雪害など，日本の災害の例を出しながら，いろいろな災害が起こる原因や災害発生の影響を考える。 ◇『災害のおそれがあるところ』の地図を使い，日本はさまざまな災害が起こる国であることや，どういったところで，どのような災害が起こるのかを読み取らせる。	
5　まとめる。	◇課題に対してまとめを書かせる。	

資料（出典名）　日本文教出版『小学社会』５年下

小学校　５年生　学級活動
心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇　本時の目標　　大地震に伴って津波が発生した時に，津波の危険から自分の身を守るための判断と方法を考えることの大切さを理解する。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　津波と聞いて，知っていることを話し合う。	◇テレビや新聞，家の人に聞いた話などを出し合うことにより，津波についての関心を高めさせる。	
2　東日本大震災の津波発生時の動画を観る。（１０分間）	◇津波の恐さを想起させ，津波から身を守る方法を考えさせる。	・ＤＶＤ視聴
3　津波についての資料を見る。 ○津波が起こるしくみ ○地震から津波が起こるまでの時間 ○津波の高さと強さ	◇地震がきたら，津波が発生することがあることを理解させる。	
釜石の奇跡とは，どんなことなのだろう。		
4　班ごとに話し合い，ワークシートにまとめる。	◇班の中で，なぜ，そのような行動をとるのかについて十分に話し合わせる。 ◇班ごとに１枚のワークシートに記入させる。	・ビデオの内容を参考にして，自分のこととして考え，意見を述べている。 （行動観察） （ワークシート）
5　班でまとめた意見を互いに発表し合う。 ・津波の恐さや逃げる方法をよく知っていたから。 ・津波の大きさが思ったより大きいかもしれないと思ったから。 ・津波が届かない高い所に逃げたから。 ・ここなら大丈夫と思わないで，もっと安全な場所はないか考えて行動したから。 ・自分から進んで逃げたから。	◇出た意見を板書することで，共通理解を図らせる。	
6　津波が発生しそうな大きな地震が来た時の気を付けることについて話し合う。	◇自分は津波に備えて，日頃からどんなことを意識することが大切かを考えさせる。	
7　この学習を通して，気付いたことや普段から心がけようと思ったことなどをワークシートに記入し，発表する。	◇大きな地震が来たら，自分は，まず，どんなことをするか，自己決定させる。	・自分の考えを述べている。 （ワークシート）

資料（出典名）　・『「津波」からにげる」　防災ハンドブック』（気象庁）
・ＤＶＤ「津波からにげる」（気象庁）

小学校　５年生　道徳

自他の生命を尊重する

◇　本時の目標　　浜口梧陵の生き方について考えることを通して，生命がかけがえのないことを知り，自他の生命を尊重しようとする心情を育てる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　資料の時代背景や稲むらについて知る。 ・時代背景　　・津波の恐ろしさ ・稲むらの大切さ　　・梧陵の立場	◇資料の時代背景や津波の恐ろしさ，稲むら，梧陵の村における役割などについて説明し，資料への導入を図る。	
2　資料を読んで話し合う。 ○心を動かされたところはどこか。 ・最初の地震があった時，村の人々を丘の上に避難させ，波がおさまっても村の人々を家に戻さず，かゆのたきだしをしたところ。 ・生き残った村人が避難するために，貴重な稲わらを燃やしたところ。 ・津波から村を守ろうと，財産を投げ打って堤防を作ったところ。	◇範読の後，十分に時間をとってから自分の心を動かされた場面を自由に発表できるようにする。 ◇ネームプレートを用い，だれがどの場面で心を動かされたか分かるようにし，理由を交流する際に意図的な指名ができるようにする。	
○なぜその場面で心を動かされたのか。 ・津波の恐ろしさを知っていた梧陵が，自分や家族だけでなく，村人の危険を避けようとがんばったから。 ・どうしたら多くの人を救うことができるか，短時間に判断して素早く行動しているから。	◇それぞれの場面の選んだ理由を交流することにより，どの行動にも共通した梧陵の村人に対する思いについて考えさせる。	
○梧陵の生き方について，すごいなと思うところはどんなところか。 ・村の人々の命を心から大切に考えているところ。 ・命を救うためなら，どんなことでもやろうとしているところ。 ・自分や家族の命だけでなく，村の人の命を守ろうとしているところ。	◇梧陵の生き方のすばらしさを考えることを通して，生命のかけがえのなさや生きることの尊さについて考えが深められるようにする。	・先人の，自分の命を顧みず多くの命を救った生き方から生命を尊重するということについて考えることができる。（ペアトーク・発表）
3　今日の学習を通して，命について考えたことを発表する。	◇今日の学習や自分の命についての見方や考え方を振り返ることを通して，命の尊さやかけがえのなさについて考えさせる。	・これまでの自分をふり返りながら，命の尊さやかけがえのなさについて考えることができる。（ワークシート・発表）
4　教師の説話を聞く。	◇その後の和歌山県の行政措置や人々の意識，３．１１の津波で亡くなられた方の分まで懸命に生きようとしている人々や，ボランティア活動をされている人々について話をする。	

資料（出典名）「稲むらの火で命を救え」文溪堂

小学校　６年生　理科

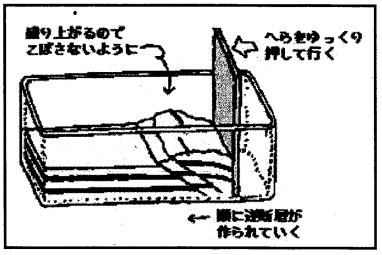
土地のつくりと変化〈火山と地震〉について考えをもつようにする

◇　本時の目標　　断層のでき方のモデル実験を通して，地震発生のメカニズムを理解することができる。
◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　地震による大地の変化の写真を見て考える。 ○写真を見て気付いたことを発表する。 ・地層の面が大きくずれている。 ・何か大きなことが起きたのだろう。 ・大きな災害になるのだろう。	◇地震による大地の変化の写真（断層）を用意する。 ・地層がずれることを断層ということを知らせる。	
2　学習課題を知る。 断層はどうやってできたのだろうか。		
3　予想と理由を考える。 ・地震で大きな揺れがあったからではないか。 ・大地が大きく動いたから。 ・ずれた方の大地が大きく動いて，もう一方はあまり動かなかったから。 ・火山噴火によるものだろう。	◇これまでの生活経験や学習したことから考えさせる。 ・「大地が動いたから」「大地がずれたから」という考えには，さらにどのように動いたのかも予想させる。	
4　モデル実験をする。 ・班で準備をして実験する。 ・できた結果をノートにスケッチする。	◇ココアパウダーと小麦粉のモデル実験から断層のでき方をつかませる。	
5　ビデオ視聴する。 ・断層によって地震ができるんだな。 ・地面がずれるなんてすごい力だな。	◇ビデオは地震と断層についての映像を扱う。	
6　学習をまとめる。 ・地面に働いた力によって，断層ができる。	◇断層により大地に大きな変化が起こったり，災害が発生したりすることについておさえる。	・断層により地震が生じ，大地に大きな変化をもたらすことがわかる。〔知識・理解〕（発表・ノート）

資料（出典名）
大阪教育大学・岡本義雄氏　考案による

【参考】
岡本義雄：小麦粉を用いた断層モデル実験，大阪と科学教育，14，13-16，2000
http://www.cc.osaka-kyoiku.ac.jp/~yossi/doc/flour-fault.pdf



小学校　６年生　学級活動
心身ともに健康で安全な生活態度を形成する

◇　本時の目標　　水害が起きた時の命の守り方について考えることができる。
◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　これまでの避難訓練について振り返る。	◇火災や不審者訓練，地震等，命を守る大切さを学習してきたことを想起させる。	
2　本時の学習課題を確認する。	水害が起きた時の命の守り方を考えよう。	
3　水害について知る。 ○水害の恐ろしさとは，何だろう。 ・川の水があふれて，家が浸かる。 ・増水によって道路が水に浸かり，自動車が走れなくなる。 ・山が崩れる。 ・水田が水に浸かると，米が育たなくなる。	◇水害が人々の生活を破壊し，命をも奪ってしまう危険があることを理解させる。 ◇平成 24 年７月に起きた熊本県阿蘇市の大雨災害についての新聞記事を提示する。	
○水害が起きた時，どうしたら命を守れるのだろうか。 ・避難する。 ・大人と一緒に行動し，自分勝手に動かない。 ・防災無線放送やラジオ，テレビのニュースを見聞きする。 ・落ち着いて行動する。	◇児童個々の考えをワークシートに記入させる。 しかけ 本校のグランドが浸水した写真を提示し，このまま水かさが増すと，どうなるのか想起させる。 ◇火災や不審者訓練，地震等の避難方法と比較させる。 ◇どこに避難したら命が助かるのか，場所や地形について注目させる。	
4　グループ討議を行い，発表する。	◇根拠を明らかにしながら話せるように話型を示す。 ◇地域の危険箇所と学んだこととを結び付けて考えさせる。	
5　まとめ ○水害に備えて，日頃からどんなことに気を付けて生活していくべきなのか考える。 ・防災用品をまとめて備えておく。 ・避難場所を確認しておく。 ・雨を甘く見ず，天気予報に気を配る。	◇指導者が水害に対して，どんな備えをしているのか説話する。 ◇水害の恐ろしさと命を守る大切さを再度，確認し，日常的に気をつけることを自己決定させる。	・水害の恐ろしさと命を守る大切さについて考えている。 （観察・ワークシート・発表）

資料（出典名）「中国新聞朝刊平成 24 年７月上旬」（中国新聞社）

3　中学校指導案

（三段滝）

中学校　１年生　学級活動

心身ともに健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇　本時の目標　災害がいつ，どこで，誰に対しても起こり得るということを認識させ，災害時の判断の大切さや災害への心構えを育てる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　最近の災害に対する知識の確認と，災害についての一般的な認識を確認する。		
○「東日本大震災」「パキスタン大地震」等自然災害でたくさんの人が被害を受け，亡くなった人も多くいることについて考えていることを発表する。	◇素直な意見を発表させる。	
○志和町内区の水害のときの写真を見せる。	◇自分たちの住んでいる地域でも災害が起こったことがあり，よそ事ではないことに気付かせる。	
2　自分が災害にあう可能性を考える。		
○生きている間に自分のこのような災害は起こると思うか考える。	◇多くの人は，「今の平和な日常生活がずっと続く。自分だけは大丈夫。」と思っている傾向にあることを知る。	
資料を読み大雨の時の判断や対処について考える		
3　大雨で列車が止まり，崖崩れの危険があり，列車から降りる指示に対して，どう判断し，行動するか考える。	◇ワークシートに自分の意見を理由も併せて記入させ，色々な考え方について知らせる。	・災害時に自分がどう判断するかしっかり考え記述している。（観察・ワークシート）
4　崖崩れのあった方角から泥水を乗り越えてきた男の人が現れる。その時どうするか考え，話し合う。	◇ワークシートに自分の意見を理由も併せて記入させ，色々な考え方があることを交流させる。	
グループ協議	◇実際に男について行った人は無事に脱出できたことを知らせる。	
5　その後どのような災害が起きるのか予想する。（その後に起こった不幸とはどんなものだったのか予想する。）	◇最後まで興味を持ちながら読めるように，予想したことを自由に発言させる。	
6　この水害を通して考えたことや感じたことを振り返る。	◇自然災害はものすごい力で，襲いかかることを認識させる。 ◇「災害時でも人々は生きるために，よりよい方法を探し判断して行動する」等の学習内容を整理する。 ◇自分でできる防災についてまとめさせる。	・災害への心構え，準備が大切であるということに気づく発言や記述が見られる。（発表，ワークシート）

資料（出典名）　『手記‘93風水害の中で』（　「かごしま文庫」編集部編（春苑堂出版）　）

中学校　１年生　学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇　本時の目標　危険な場所，安全な場所について理解し，風水害等からの避難時に安全な行動がとれるようにするために，地域の様子を調べる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　小学校に移動。 ○あいさつ ○小学生との顔合わせ	【事前指導】 ◇経路の地図を作成させておく。 ◇フィールドワークの目的や危険な場所，災害の起きそうな場所について指導しておく。 ◇記録等の係を決めておく。 ◇日程確認をしておく。	・無駄のない経路になっている。（地図）
2　グループごとにフィールドワークに出発 ○中学生と小学生がグループになり，引率教員とともに地域を歩いて調べる。 〔引率教員〕 小坪地区（教頭，教諭２） 長浜地区（教頭，教諭１） ○調べるポイント ・避難場所（高台等） ・がけ崩れ ・海への転落 ・道路状況（道幅，カーブ等） ・その他（水害，地震，津波等）	【フィールドワーク時の約束】 ◇班長の指示を聞く。 ◇勝手な行動はしない。 ◇自分の目で見て探す。 ◇交通安全に気を付ける。 ◇出会った人に挨拶をする。 ◇小学生にわかりやすく説明する。	・危険箇所について正確に記録している。（ワークシート）（写真） ・小学生や地域の方々とコミュニケーションを図っている。（行動観察）
3　フィールドワーク終了後 ○小学校に集合 ○人数確認 ○解散	【事後指導】 ◇振り返りの時間をしっかり確保する。 ◇フィールドワークで気付いたことをまとめ，日常生活に結び付けるよう指導する。	・避難場所や避難方法について適切にまとめている。（ワークシート）

資料（出典名）　兵庫県立舞子高等学校環境防災科（防災教育チャレンジプラン）

中学校　２年生　社会

身近な地域及び各県の地域的特色として，様々な災害について調査する

◇　本時の目標　　日本の特徴的な自然災害とその要因について理解し，被害を最小限に食い止めるための対策について考え，まとめることができる。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　日本の地形・気候の特色について復習する。 ○国土の70%は山地である，海溝から見ると10,000mを越える山地である，気候は６つの気候区に分かれているなど。	◇環太平洋造山帯の一部である，気候は地形・緯度・海流・季節風等の影響を受け，地域によって大きく差があることを押さえておく。	
２　日本の特徴的な自然災害を知る。 ○地震，津波 ○台風や梅雨前線の活動による大雨被害 ・火山活動による被害など	◇写真やビデオ等の視聴覚教材を準備しておく。 ・地震，津波 ・集中豪雨，洪水，暴風，地滑り，山崩れ，土石流，竜巻 ・火砕流，噴出物	
３　自然災害の要因を調べる。 ○教科書と資料集を使って各自然災害の要因について調べ，ワークシートにまとめる。	◇写真，要因が一体となったワークシートを準備しておく。	
４　自然災害への対策を考える。 ○自分の考えをそれぞれの自然災害についてことばで表現する。 ○グループ交流及び学級全体の交流で考えを深める。	◇自然災害が発生したときに被害を最小限に食い止めるための対策を考え，交流させる。 ・国や自治体レベルでの対策と各家庭や個人レベルでの対策があり，そのどちらも大切であることを押さえる。	・日本の特徴的な自然災害に対する対策を考え，まとめている。〔思考・判断・表現〕（観察・ワークシート・発表）

中学校　２年生　保健体育

自然災害による傷害は，災害発生時だけでなく，二次災害によっても生じることについて理解する

◇　本時の目標

1　傷害の防止について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組むことができる。

2　自然災害による傷害は二次災害によっても生じることについて理解する。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準[観点]（評価方法）
1　自然災害とは，何か考える。 ○自然災害が生命や生活に被害をもたらすこと。 「忘れた頃にやってくる」 自然災害には，どんなものがあるか？ 例‥地震，台風，津波，土砂崩れ，地割れ，火災，洪水，ゲリラ豪雨	◇突然，襲ってくること，過去に多くの被害があったことを理解させる。 ◇日本では，地震，台風，豪雨が多いことを理解させる。	・傷害の防止について，健康に関する資料を見たり，自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。（観察）
2　「東日本大震災」のＤＶＤを視聴し，被害を含むどんな傷害が発生したか考える。 ○映像を参考にして，被害をできるだけ多く発表する。 ・家屋の倒壊や家具の落下，転倒などによる死傷者の発生 ・電柱や看板等の落下，転倒などによる被害の拡大 ・地震に伴って起こる津波，土砂崩れ，地割れ，火災などによる被害 ・ライフライン（水道，電気，ガスなど）が断たれる。	◇災害そのものの被害は予知できることと，できないことがあることを理解させる。	
3　災害そのものの被害（一次災害）なのか二次災害なのかを考える。 4　教訓を基に，身近な家庭や学校でできる地震対策を考える。 ・避難訓練の実施，避難場所の確認 ・非常持ち出し袋の準備 ・家具等の落下，転倒防止 ・家族での話し合い	◇火災など二次災害による被害も大きいことを理解させる。 ◇災害による被害を未然に防ぐためには，何ができるか考えさせる。 ・ラジオなどの正しい情報を得る。 ・落ち着いた状況判断。 ・冷静・迅速・安全に行動，避難。	・自然災害による傷害は，災害発生時だけでなく，二次災害によっても生じることについて，書き出している。（ワークシート）
5　本時のまとめをワークシートに記入する。 日頃から災害時の安全確保や行動の仕方を理解していれば，突然の災害でも冷静・迅速・安全に行動でき，それにより二次災害による傷害の防止に繋がることを理解する。	◇一瞬の出来事のため，日頃からの災害への意識も含めた準備を大切にすることにより，落ち着いた行動ができるように訓練等を実施する。	

中学校　２年生　保健体育

自然災害による傷害の多くは，災害に備えておくこと，安全に避難することによって防止できることについて理解する

◇　本時の目標

1　傷害の防止について，学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明することができる。

2　自然災害による傷害の多くは，災害に備えておくこと，安全に避難することによって防止できることについて理解する。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準[観点]（評価方法）
1　地震が起きたときに，どのような行動をしたらよいか，過去の大地震の教訓等から考える。 ・身の安全を確保する。 ・ドアや窓を開けて，避難口の確保。 ・火を消し，ガスの元栓を締める。 ・海岸近くの人は，すぐ高台に避難。 ・お年寄りや赤ちゃん，体の不自由な人の安全確保。 ・水と食料は自分たちで備えておく。（1人1日3リットル）	◇地震が起きたとき，最初にする行動・教訓 ◇避難する際，避難した後の教訓	
2　避難に備えて，あなたなら非常持ち出し袋に何を入れておくべきか考える。 懐中電灯，ろうそく，携帯ラジオ，防災頭巾，水，非常用食料，生活用品，救急薬品，ラップなど	◇個人思考をさせた後，ペア思考をさせる。	・傷害の防止について，学習したことを自分たちの生活や事例と比較したり，関係を見付けたりするなどして，筋道を立ててそれらを説明している。（観察・ワークシート）
3　自分たちの住んでいる地域で，地震が発生したときの二次災害を想定し，その時の対処行動を考える。 ・池や川の増水による浸水 ・裏山の土砂崩れ ・家と家の間が狭いための火災	◇３～４人のグループ学習をさせる。住んでいる環境から起こりそうな二次災害を想定し，適切な対処行動を考えさせる。 ・避難経路 ・避難方法	
4　３について話し合った内容を，グループごとに筋道を立てて説明し合う。	◇避難方法や避難経路等について，筋道を立てて説明させるとともに，自分たちの生活に生かせる内容を見付けさせる。	・自然災害による傷害の多くは，災害に備えておくこと，安全に避難することによって防止できることについて，書き出している。（ワークシート）
5　本時のまとめとして，気付きや感想をワークシートに記入する。 日頃から，自然災害による傷害は，災害時の安全の確保に備えておくこと，冷静・迅速・安全に避難することによって防止できることについて理解する。	◇様々な状況を想定し，危険なものを見付け，そこから逃げる方法を日頃から考えておくことが大切であることを伝え，振り返りをさせる。	

中学校　２年生　学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇　本時の目標　津波を知り，生き抜く意味を考える。
◇　準備物　　VTR「釜石の奇跡」・ワークシート・避難用品(実物・写真)・チェックリスト・ホワイトボード
◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕(評価方法)
1　本時の目標を知る。 津波を知り，生き抜く意味を考える。		
2　3.11 東日本大震災の発生について，今の思いを共有する〈個人作業の協同化〉。 ○現象面（自然の想像を絶する力） ○心情面（命の重み） ○被災しなかった自分	◇傍観者的な発言にしない。 ◇具体的な映像や印象で語らせる。 ◇自分にできることは何なのか。 ◇「釜石の奇跡」につなぐ。	・自分から思いを表現している。 (発表・ワークシート)
3　VTR「釜石の奇跡」を視聴する(22 分)。 ○学ぶべきは何か。 ○視聴後にポイントを発表することを知ってメモを残す。 ○各自の学びを出し合う。 ○生き抜くとはどうすることか。	◇生き抜く重みから離れさせない。 (傍観者にしない) ◇５月の津波避難訓練時との違いを明確にさせる。 ◇できるだけ自分の言葉で他のグループにつながせる。	・集中して視聴している。 ・自分から思いを表現している。 ・他者の思いを聴き取っている。 (発表・ワークシート)
4　今日の学びを家庭に持ち帰る。 ○チェックリスト(資料：生徒用)で「今」をチェックしてみよう。 ○グループで交流する。 ○家庭用チェックリストを持ち帰る。	◇写真や現物を提示する。 ◇各自の学びが家族の学びになるように，自覚を育てる。 ◇家庭用チェックリストを配る。	
5　本時の学習をまとめる(ワークシート)。 6　次時の予告とする。	◇提出後，内容によっては学級だよりで紹介する。	・自分の考えをまとめている (発表) (ワークシート)

資料（出典名）　VTR　～迫る大震災にどう立ち向かうか～
〈Chapter2〉防災教育から生まれた「釜石の奇跡」～片田教授に聞く～

中学校　３年生　理科

様々な事物・現象を大地の変化と関連付けて理解する

◇　本時の目標

日本の太平洋沿岸で発生する海洋プレート型地震（特に東南海・南海地震）と津波のメカニズムや津波の予想される波高，到達時間等を学習することにより，地震や津波を科学的に認識し，自然と人間とのかかわり方について考察する。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1　東北地方太平洋沖地震による津波の映像を見る。（台風の高波の映像も見る） ○　何の映像だろう。 ・東北地方太平洋沖地震による津波 ○　台風の高波と比べて違う点を探そう。 ・津波は後からどんどん来る。 ・海が盛り上がる。 ・川の流れのようだ。	◇　映像により視覚を通して，津波と台風の高波とを比較し，その違いを考えさせる。	・津波の特徴や津波と台風の高波の違いを発表できる。 〔知識・理解〕 （発表・観察）
2　海洋プレート型地震と津波のメカニズムについて学習する。 ○　地震と津波はどちらが先に起こるだろうか。 ・地震 ◆　海洋プレート型地震と津波のメカニズムをプレートの動きから説明する。 ○　中四国・九州地方に地震や津波を引き起こすプレートは何だろう。 名前は？ ・フィリピン海プレートとユーラシアプレート。 ○　将来，発生が危惧されるフィリピン海プレートとユーラシアプレートの境界を震源とする地震の名前を知っているか。 ・知らない ・南海地震	◇　地震発生後，津波が発生することを確認する。 ◇　海洋プレートの沈み込みのエネルギーが，大陸プレートの西（下方向），東（上方向）への変動を引き起こし，地震から津波へと連動することを押さえる。 ◇　図（フリップ）や映像資料を活用し位置を確認させる。	・海底の隆起が海水を盛り上げ，それによって津波が発生することを理解できる。 〔知識・理解〕 （発表・観察）

3　東南海，南海地震について学習する。 ○　呉（市）地域に影響を与える東南海，南海地震や津波について学習しよう。 ◆東南海・南海地震のメカニズムとそれに伴う津波の呉市沿岸部への到達時間と波高について説明する。	◇　東南海・南海地震が四国沖の太平洋の海底で発生し，津波が豊後水道と紀伊水道を経由し，瀬戸内海に侵入することを確認する。	・津波の進入経路をワークシートに記入できる。 （観察・ワークシート）
4　東北太平洋岸大津波の教訓から学ぶ。 ○「津波てんでんこ」の話･･･日頃から地震や津波発生時の避難経路，場所の確認を家族で徹底し，引き返さず逃げられる信頼関係の重要性を話す。	◇　地域や学校での避難経路，場所などの確認をする。	・津波が襲来した地域の地形や波の高さなどと被害の大きさとの関係から避難経路等を考察している。 〔科学的思考・表現〕 （観察・ワークシート）
5　学習したことをまとめる。	◇　ワークシートにまとめや感想を書かせる。	

中学校　３年生　学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇　本時の目標　地震発生時には，「ものが落ちてこない，倒れてこない，移動してこない場所に身をよせる」ことを原則とすることを理解する。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　地震に係わる被害について理解する。 被害状況の写真を見て確認する。 ○どのような状況（形）で被害にあったのか。	◇ものが落ちて被害にあった，ものが倒れてきて被害にあった，ものが移動してきて被害にあった写真を用意する。	・写真を見て的確に状況把握ができ，説明している。 （観察・発表）
2　地震発生直後です。次の時，どうすればより安全といえるか。 ○調理室前の第１更衣室で地震が発生しました。机がなく，隠れることができません，どこに移動すれば，より安全か。 ①部屋の中央 ②窓側の壁 ③戸口側の壁 ④ロッカー側の壁 ⑤中庭まで出る また，その理由は何か。どのような被害にあう可能性が少ないという形で答える。 ○各個人で考えた後，グループ協議する。	◇はじめの被害写真から想定される被害を受けないためには，という考え方を生徒に意識させる。 ◇意見として，「ものが落ちてこない，倒れてこない，移動してこない場所に身をよせる」という意見が生徒から出るよう，発問をする。	・自分で考え，判断したことを，根拠を示して明確に説明している。 （観察・発表・ノート）
3　どんな場所でも 100%安全とは言えないが，「ものが落ちてこない，倒れてこない，移動してこない場所に身をよせる」ことが原則であることを理解する。	◇どの状況でも，「ものが落ちてこない，倒れてこない，移動してこない場所に身をよせる」ことが原則であり，後は自分の判断になることを確認する。	・自分の身を自分で守るという意識をもち，考えている。 （発表・ノート）
4　次の時はどうするのかを考える。 （1）登下校中 （2）家の中（自分の部屋） （3）デパートで買い物中	◇避難方法を知ったことで，今後の生活の中で気を付ける点を自己決定させ，実践につなげる。	

資料　「地震写真」，「消防庁地震防災マニュアル」

中学校　３年生　学級活動

心身とも健康で安全な生活態度や習慣を形成する

◇　本時の目標　　防災意識や危機対応に関する意識を高めるとともに，自他の生命の尊重や助け合いの精神・態度を身に付ける。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　既習（理科・社会）内容を振り返る。 2　本時の目標を確認する。	◇理科・社会の時間に学習した，気象現象の仕組みや自然災害発生の要因を想起させる。（雨量の目安・火山活動等）	
自然災害発生の際に，日頃からどのような意識を持ち，行動すればよいのか考えよう。		
3　「昭和４７年７月豪雨災害」について知る。 ○　油木において，どのような自然災害が起きる可能性があるのか考える。 ○　昭和４７年７月豪雨災害の，発生状況を知る。 ・当時，生まれていたら，また，家族がそのような場面に遭遇したら，どのような行動をとっていただろうか。	◇既習内容から，考えられる災害を発表させる。 ◇写真資料・気象状況・被害状況等の概略を提示し，被災の様子を理解させる。 （特に写真資料においては，ＩＣＴ機器を活用し，当時の状況を視覚で確認させる。） ◇当時の状況を，家族から聞いたことのある生徒がいれば発表させる。 ◇自然災害が他地域のことではなく，私たちの居住する地域でも，かつて実際に発生し，甚大な被害をもたらした事実を説明する。	・当時の状況や，置かれた立場から，自分の意見を言っている。 （行動観察・発表）
4　「釜石の奇跡」について知る。 ○　東日本大震災発生時の，釜石市の中学生がとった行動を考える。 ・中学生が小学生や幼稚園児を助けて避難したことをどう思うか。 ・なぜ，中学生はそのような行動をとることができたのだろうか。	◇資料プリントを配付して，釜石市の中学生がとった行動を紹介する。 （危機一髪の避難行動・日頃からの防災教育と防災意識を理解させる。）	・釜石市の中学生がとった行動について，共感している。 （行動観察・発表）
5　本時の学習を振り返る。 ○　日頃から，どのような事を意識して生活することが必要なのかを考える。	◇日頃からの意識が，有事の際に他者のことも考えられる余裕・行動につながるということを認識させる。	・日頃からの防災教育・防災意識の大切さを感じている。 （発表・学習シート）

	◇最上級生として，有事の際には強いリーダーシップと協調性を発揮することの重要性を認識させる。 （学校内だけでなく，地域の中でもリーダー性が求められることとなる。） ◇私たちの居住する地域でも，自然災害が発生し甚大な被害をもたらしたこと，東日本大震災等における防災教育・意識・行動等を語り伝えることの大切さを理解させる。	・最上級生として，自らの立場を自覚している。 （発表・学習シート）

資料（出典名）

○油木町農業百年誌（油木町農業委員会）　○昭和４７年７月豪雨災害誌（広島県）

○昭和４７年災害時記録写真集（神石高原町役場建設課）

○月刊「ウェッジ」　○読売新聞

学習を終えて

年　　番　氏　名

□　私たちが生活する町「油木」も，かつて「昭和４７年７月豪雨災害」が発生したように，災害は「いつ・どこで」発生するかわかりません。

私たちは日頃から何を考えながら生活していけばよいのでしょうか。また，災害が発生した時に，どのような行動をとればよいのでしょうか。

今回の学習を終えて，感じたことや今日からでも自分にもできることを書いてみましょう。

さまざまな自然災害（自然環境の急変による災害）

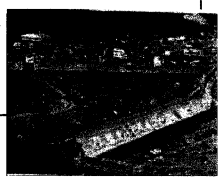
－日本の場合－

○梅雨末期の集中豪雨や台風による
　大雨・強風・洪水・地滑り・崖崩れ・土石流
　洪水・高潮

○火山活動（環太平洋造山帯）による
　地震・噴火

○気候（気候区分）による
　冷害・干ばつ

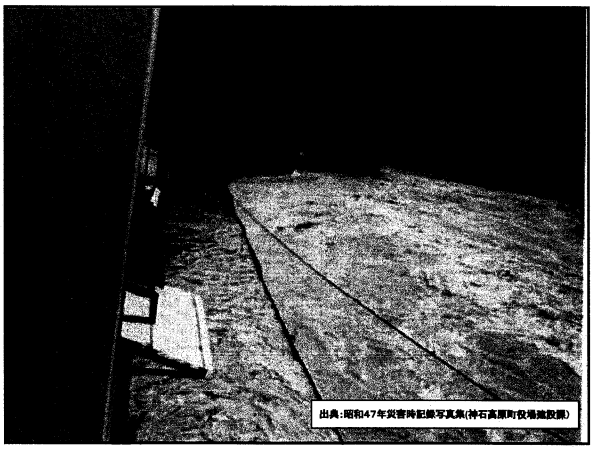
等



出典：中学社会　地理的分野（日本文教出版）

出典：昭和47年災害時記録写真集(神石高原町役場施設課)

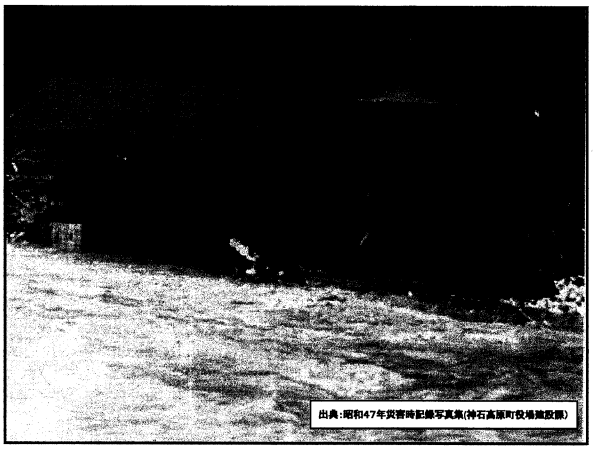
出典：昭和47年災害時記録写真集(神石高原町役場施設課)

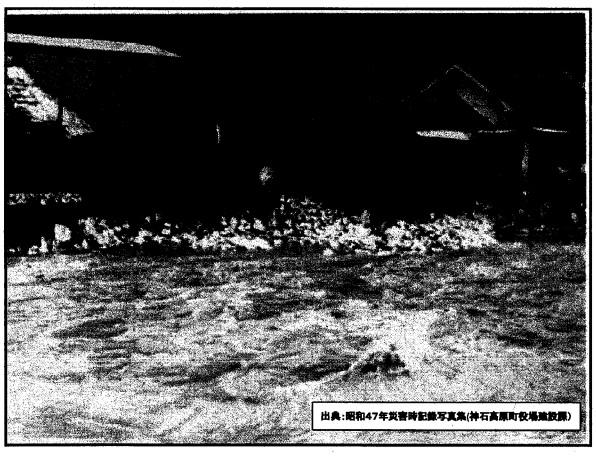


出典：昭和47年災害時記録写真集(神石高原町役場施設課)

出典：昭和47年災害時記録写真集(神石高原町役場施設課)

出典：昭和47年災害時記録写真集(神石高原町役場施設課)





昭和47年7月豪雨災害(出典:油木町農業百年誌)

気象概況

梅雨入りは，6月3日で平年より6日早かった。6月中旬から本格的な梅雨の気圧配置となり，梅雨前線が西日本に停滞するようになった。

7月ごろは，梅雨明けを思わせるような好天が続いたが，低気圧の東進に伴って非常に湿った気流(湿舌)が吹き込み，7月9日の夜半からは，梅雨前線が刺激されて昼間は北上，夜間は南下を繰り返した。

一方，南方海上には，台風が4個も発生し断続的な大雨を長時間降らせた。

昭和47年7月豪雨災害（出典：油木町農業百年誌）

7月 9日	24:00		降り始めからの雨量 34. 0mm
7月10日	3:10	大雨注意報発令	
	13:40	大雨洪水注意報発令	
	24:00		降り始めからの雨量 91. 5mm
7月11日	6:00		降り始めからの雨量 202. 5mm
	7:00	大雨洪水警報発令	
	10:00		降り始めからの雨量 237. 0mm
	11:00	油木町災害対策本部設置	
	17:00		降り始めからの雨量 253. 0mm
	21:00		降り始めからの雨量 302. 5mm
7月12日	1:00		降り始めからの雨量 400. 5mm
	14:00		降り始めからの雨量 450. 1mm
	24:00		降り始めからの雨量 467. 0mm
7月13日	6:45	大雨洪水警報解除	
	16:10	大雨注意報発令	
	18:00	災害救助法の適用	
	24:00		降り始めからの雨量 470. 0mm
7月14日	17:00	大雨注意報解除	
	24:00		降り始めからの雨量 512. 5mm

昭和47年7月豪雨災害（出典：油木町農業百年誌）

被害状況

河川の氾濫で堤防の決壊・家屋・橋梁・田畑の流失・冠水・埋没もあった。

また，道路は，山崩れや崖崩れ等150箇所で寸断された。その他停電や電話も不通となり多くの集落が孤立した。

○家屋の全壊又は流出	17世帯	53人
○床上浸水	13世帯	46人
○家屋の半壊	3世帯	11人
○床下浸水	30世帯	165人
○人的被害	なし	

■雨量の目安

出典：気象庁用語解説

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm/h)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内（木造住宅を想定）	屋外の様子	車に乗っていて	災害発生状況
10～20	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない			この強度の雨でも長く続く時は注意が必要
20～30	強い雨	どしゃ降り			地面一面に水たまりができる	ワイパーを強くしても見づらい	側溝や下水，小さな川があふれ，小規模の崖崩れが始まる
30～50	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る	傘をさしていてもぬれる		道路が川のようになる	高速走行時，車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）	山崩れ，崖崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備がめ安 都市では下水管から雨水があふれる
50～80	非常に激しい雨	雨のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる	眠っている人の半数くらいが雨に気がつく	水しぶきであたり一面が白っぽくなり，視界が悪くなる	車の運転は危険	都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある マンホールから水が噴出する 土石流が起こりやすい 多くの災害が発生する
80～	猛烈な雨	恐怖しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる					雨による大規模な災害の発生するおそれが強く，最重な警戒が必要

参考：神石高原町

大雨警報基準　1時間雨量50mm

大雨注意報基準　1時間雨量30mm

洪水警報基準　1時間雨量50mm

（小田川流域　14mm　帝釈川流域　15mm　福枡川流域　13mm）

洪水注意報基準　1時間雨量30mm

（小田川流域　8mm　帝釈川流域　12mm　福枡川流域　10mm）

防災教育3原則（避難3原則）

◇想定にとらわれるな。

◇その状況下において最善をつくせ。

◇率先避難者たれ。

片田敏孝（群馬大学大学院教授）

「想定外」を生き抜く力

月刊「ウェッジ」2011年5月号（2011年4月20日発行）より（一部抜粋）

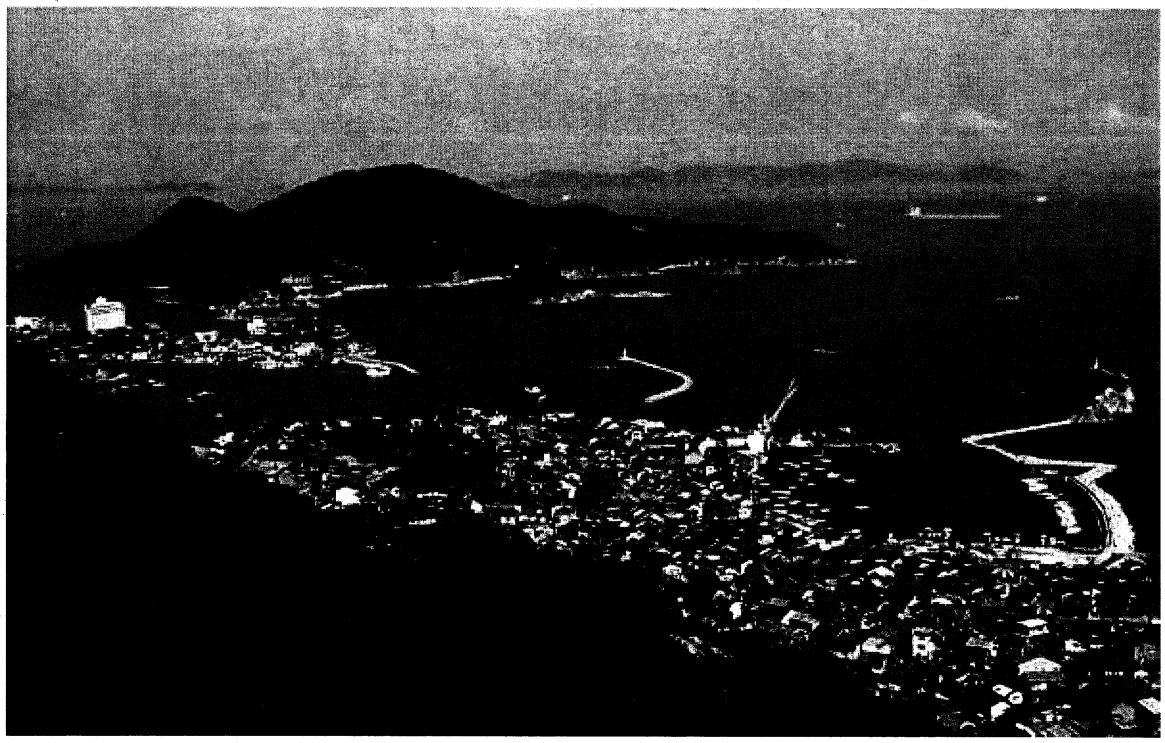
釜石市の鵜住居地区にある釜石東中学校。地震が起きると，壊れてしまった校内放送など聞かずとも，生徒たちは自主的に校庭を駆け抜け，「津波が来るぞ」と叫びながら避難所に指定されていた「ございしょの里」まで移動した。日頃から一緒に避難する訓練を重ねていた隣接する鵜住居小学校の小学生たちも，後に続いた。

ところが，避難場所の裏手は崖が崩れそうになっていたため，男子生徒がさらに高台に移ることを提案し，避難した。来た道を振り向くと，津波によって空には，もうもうと土煙が立っていた。その間，幼稚園から逃げてきた幼児たちと遭遇し，ある者は小学生の手を引き，ある者は幼児が乗るベビーカーを押して走った。間もなく「ございしょの里」は波にさらわれた。間一髪で高台にたどり着いて事なきを得た。

釜石市街の港近くにある釜石小学校では，学期末で短縮授業だったため，地震発生の瞬間はほとんどの児童が学校外にいた。だが，ここでも児童全員が津波から生き残ることができた。

ある小学１年生の男児は，地震発生時に自宅に１人でいたが，学校で教えられていた通り，避難所まで自力で避難した。また，小学６年生の男児は，２年生の弟と自宅にいた。「逃げようよ」という弟をなだめ，自宅３階まで上り難を逃れた。授業で見たＶＴＲを思い出したからだ。既に自宅周辺は数十センチの水量で，大人でも歩行が困難になっており，自分たちではとても無理だと判断した。彼らは，自分たちの身を自ら守ったのである。

4　高等学校指導案



鞆の浦（全景）

高等学校　家庭基礎

健康や安全に配慮した住生活の管理ができるようにする

◇　本時の目標　　東日本大震災被災地での被災地支援ボランティアの方の話を聞くことにより，自然災害の恐ろしさを知り，災害時の避難方法等を考え，語り継ぐことの大切さを理解する。

◇　学習の流れ

学習活動	指導上の留意事項（◇）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1　講師紹介 講師：みはらまちづくり兎っ兎 小川　和子代表 コーディネーター：三原市生活環境部 危機管理室		
2　東日本大震災被災地での支援活動報告 ○スライドを用いての被災地の状況紹介	◇震災から１年以上経ち，震災についての報道があまりされなくなった今でも，被災地では未だに災害の傷跡が残っている状態のところが多いことを知り，災害の大きさ恐ろしさを再確認する。 ◇祖父たちから語り継がれていた津波からの避難方法によって助かった小学生の例を挙げ，語り継ぐことの大切さを知る。	・東日本大震災の事例を聞き，災害の恐ろしさを知り，避難方法など，日頃からの防災対策が必要なことに気付いている。 〔関心・意欲・態度〕 （観察・ワークシート）
○支援活動の報告	◇災害発生時，高校生として何ができるかを考えさせる。	
3　災害時の対処法を知る ○防災用の炊飯袋「ハイゼックス」を利用した蒸しパン作り ○ペットボトルを活用した食器作り ○マイ防災リスト（自分流防災バック）作り ○試食	◇防災用炊飯袋「ハイゼックス」を一つの例として紹介し，災害時に調理をする方法を考えさせる。 ◇災害時，物資が不足しているときに身の回りにあるものを活用し，工夫することを考えさせる。 ◇無味乾燥になりがちな非常持ち出し袋を自分流にアレンジすることによって，災害時の備えを主体的に行うよう意識させる。	・災害時の対処法を知り，身の周りにあるものの活用方法を考えている。 〔思考・判断・表現〕 （観察・ワークシート）
4　まとめ（アンケート実施）	◇本時に学んだことを家庭でも話し，家族で災害時の対処法などを日頃から話し合うよう指示する。また，自分の住む地域が被災した場合，高校生として何ができるか，どのような活動をするべきか考えさせる。	・自分の住む地域が被災した場合，高校生として何ができるか考え，語り継ぐことの大切さを理解している。 〔思考・判断・表現〕 （ワークシート）

参考文献：ＯＲＩＶＥ　いのちを守るハンドブック　ＮＯＳＩＧＮＥＲ編

高等学校　地理Ａ

我が国の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解する

◇　本時の目標　地形的特徴とそこでの生活を考慮し，防災対策を検討することができる。
　　防災対策を理解することで，災害時に行動できる意識を高める。

◇　学習の流れ

	学習活動	指導上の留意事項	評価規準
導入	1〇テーマ「きみは防災都市をつくれるか」の主題を再確認する。 〇現状の防災対策で，三原市の浸水被害に対する対策は大丈夫だろうか？ →想定外の洪水や津波のときはダメだろう。	◇前時の三原市の浸水被害に対する防災対策の内容を想起させる。 ◇三原市の防災対策を整理したマトリックス図を提示する。	・テーマを確認することができる。
展開	2〇昨年の宮沖地区の浸水被害の事実から，今後の三原市の防災対策の在り方を考える。 〇平成 23 年 5 月 11 日に起きた三原市宮沖地区の浸水被害について記事や資料から調べる。① 被害は→住宅や店舗 29 戸浸水 原因は→ポンプのエンジンを動かすディーゼルエンジンの燃料切れ（人災）	◇記事や資料から事実確認させるとともに，浸水範囲や宮沖ポンプ場の位置関係も読み取らせる。	・記事や資料から事実を読み取ることができる。
	〇ポンプ場の能力を超えた想定外の水量の自然災害になることもあるが，この記事のように燃料切れや故障などポンプ場の整備管理不良による人災の場合もある。いずれにしても排水処理をし続けなければ住めない土地で今後どのような対策が考えられるか？ →海面下という自然では住めない場所に技術とエネルギーを使って安全を確保しながら暮らしているという現実を再確認する。 ・短期的にハード面の追加整備 ・長期的に土地のかさ上げや高地への移住	◇三原市の今後の防災対策を検討させる。	・自分の考えを書くことができる。
	3〇学校周辺のように，歴史的に海を干拓によって陸地化した，海面より低い土地が現在宅地となっているような地域が，三原市以外にもあるだろうか？ そこではどんな防災対策がとられているか？ 広島市南区，岡山県倉敷市，玉野市，岡山市，大阪市，東京都墨田区・江東区など	◇三原市のように，比較的大きな河川の河口付近に発達している他都市を思い出させる。	・三原市と同様の地形的特徴をもつ他都市を思い出すことができる。
	〇広島市南区の地形図を読み取り，浸水被害の可能性の高い危険地域を理解する。② 三原市同様，干拓によってつくられた海面下の低地が広島市内にも存在し，生活が営まれていることを確認する。	◇広島市南区の干拓地を中心とした地形図から標高を中心に地形を読み取らせる。	・広島市の干拓地の広がりを地形図から読み取り，理解している。（読図）
	〇広島市の浸水被害危険地域を浸水被害地域図やハザードマップで確認する。③④	◇スクリーンに大きく映し出し，浸水被害地域の空間的広がりを理解しやすいようにする。	・広島市の浸水ハザードマップを読み取り低地の特徴を理解している。（読図）

展開	○広島市では，津波・高潮・河川洪水・内水氾濫などの浸水被害から人々の命や生活を守るために，どんな防災対策をとっているかを調べる。 →低地の排水対策（浸水防止対策）について広島市から学ぶ。 ・新千田ポンプ場⑤ ・大洲雨水貯留池⑥ ・マンホールポンプ⑦	◇スクリーンと手元の資料から広島市の浸水被害に対する防災対策を読み取らせる。	・ハード面・ソフト面，個人的側面・行政的側面の４分割のマトリックス図に広島市の防災対策を整理し，理解できる。
	４○三原市において現在実際に行われている浸水被害からの防災対策と，広島市の対策とを比較しながら，三原市の対策を評価し，将来の三原市の防災対策を考える。 ○三原市の現状のポンプ場の設置分布図から追加設備の立地を理由とともに検討し提案する。⑧ ・追加のポンプ場の設置 ・雨水貯留池の新設	◇スクリーンと手元の資料から三原市の浸水被害に対する防災対策を読み取り，広島市の場合と比較検討させる。	・三原市の現状の対策から改善点や追加点を考察し，今後必要な対策を提案することができる。 （ESD　未来像を予測する力）
終結	５○自然災害について「防災都市をつくれるか」の問いに対し，今後の持続可能な防災都市づくりの在り方について自分の意見を述べる。 ○自然災害はハード面の対策により，短期的な政策としてある程度被害を小さくすることはできるが，将来の長期的な視点に立って，どんな場所でどのように暮らすかをイメージした防災都市づくりの必要性に気付く。	◇防災対策から今後の自分の生き方や行動を考えさせる。	・地域社会での生活の持続可能性を考え，今後の防災都市づくりや住環境の在り方について，自分の考えを述べることができる。

資料（出典名）
①朝日新聞「三原　住宅，店舗29戸浸水」平成23年5月13日　p.29　朝刊
②広島市の干拓地の造成過程
③広島市浸水被害地域分布図
④広島市高潮被害想定浸水区域図
⑤新千田ポンプ場　パンフレット
⑥大洲雨水貯留池　パンフレット
⑦マンホールポンプ構造図
⑧三原市排水ポンプ場立地図

地理A　防災ワークシート③

３年１組（　　）氏名（　　）

○宮沖ポンプ場が機能しなかったことによる浸水被害の事実から，あなたはどんな対策が必要だと考えますか？

○三原市においても新たな排水ポンプ場や雨水貯留池を建設するとしたら，どこに建設しますか？現在のポンプ場の配置図や昨年の浸水被害区域図，ハザードマップを参考にしながら考え，下の地図に，新ポンプ場は赤色，雨水貯留池は青色で示し，理由も書きなさい。

・新ポンプ場の立地理由（赤色）

・雨水貯留池の立地理由（青色）

○将来の「防災都市づくり」について，自分が思ったことや考えたことを書きなさい。

○将来，持続的に人々が暮らしていく場所（都市や町など）について，自分の考えを書きなさい。

5　特別支援学校指導案

（帝釈峡）

特別支援学校　小学部　日常生活の指導

場　所	教室	授業形態	学級
小学部　第５・６学年　（３名）			
教科等	日常生活の指導		
単元・題材名	地震避難訓練をしよう		
本時の具体的目標	地震避難訓練を通して，地震の際に教員の指示に従って，適切に避難することができる。		
前回の授業からの改善点	初回		

過程	学習過程	指導上の留意点 （○支援・☆評価・※留意点）	準備物
導入	1　あいさつをする。	○全員の姿勢が整うのを待ってからあいさつをする。	
	2　絵本を見る。 「地震のえほん　こんなときどうする。」	○絵本を注目しているか確認しながら読み進めるようにする。 ○特に注意してみてほしい場面では，指さしをしながら読む。	絵本
展開	3　地震について知る。	○地震が来た時にとるべき行動を示したプレゼンテーション又はスライドを提示する。 ○児童がとるべき行動は特に注目させるようにする。	パソコン
	4　地震避難訓練の練習をする。 ・机の下に隠れる ・避難経路を歩く ・通して練習	○見通しをもつことができるように，地震発生時の一連の行動を絵カードにし，避難訓練の流れを説明する。 ○机の下に隠れる時の留意点を示しながら，一人ずつ確認をする。 ○避難経路を実際に歩く際に，並ぶ順番も示すようにする。 ○地震発生時から避難場所に移動するところまで通して練習する際には，教員もドアや窓を開ける。 ○Ｈが適切に行動できるように，教員が一人後ろから見守る。	手順カード
	個別の目標 教員の指示や絵カードを見て手順どおりに避難することができる。（K） 教員の指示や絵カードを見て手順どおりに避難することができる。（I） 教員と一緒に手順どおりに避難することができる。（H）	☆教員の指示に従って避難することができたか。	
まとめ	5　振り返りをする。	○絵カードを用いて，全校での避難訓練があることを伝える。	絵カード
	6　あいさつをする。	○全員の姿勢が整ってからあいさつをする。	

反省・気づき等（児童生徒の変容を記入し，次時への改善に生かす。）

地震避難訓練では教員の指示をよく見て，落ち着いて行動することができた。絵カード等を使用し，言語化しながら，具体的な行動を明確にし，言語の定着を目指したい。

特別支援学校　中学部　日常生活の指導

場　所	教室	授業形態	学級
中学部　第２・３学年（５名）			
教科等	日常生活の指導		
単元・題材名	自然災害防災教育		
本時の具体的目標	様々な災害発生時における危険について理解し，適切な行動をとることができる。		
	地震の恐ろしさや，地震から身を守るための正しい行動を知り，適切に避難することができる。		
前回の授業からの改善点	初回		

過程	学習過程	指導上の留意点 （○支援・☆評価・※留意点）	準備物
導入	1　あいさつをする。	○あいさつ時の姿勢に気をつける。	
	2　地震の映像を見て，地震の恐ろしさを知る。	※地震により建物の崩壊や火事が起こることの恐ろしさを実感しているか生徒の顔の表情に注目する。	ＤＶＤ ノートパソコン プロジェクター
展開	3　映像を見た感想を発表する。	☆発表者の方を向き，友達の発表を聞くことができたか。	
	4　釜石市の奇跡の話を聞く。	※自分の命は自分で守らなければならないことを確認する。 ※地震についての知識の有無が命を左右したことを確認する。 ・　情報収集の大切さ ・　判断力の育成	
まとめ	5　学校で地震が起きた場合を想定し，地震が起きた時や揺れがおさまった後の行動を確認する。	○実際に地震が起きた時の対応（頭部の保護等）をＴ１が前に出て示す。 ○「押さない，走らない，しゃべらない，もどらない」を意識して避難させる。 ○誘導ロープを用いて校庭に避難する。 ☆注意事項を守って避難することができたか。	ヘルメット 誘導ロープ
	6　本時のふりかえり	○注意事項の復唱と誘導ロープ場所の確認を行う。	
	7　あいさつをする。		

個別の目標
・地震が起きた時やおさまった後に自分がしなければならないことがわかる（A，B）
・地震が起きた時に他の人と一緒に安全な場所に移動することができる（C，D，E）

反省・気づき等（児童生徒の変容を記入し，次時への改善に生かす。）

特別支援学校　高等部　日常生活の指導

場　所	教室	授業形態	学級
高等部　第１学年（８名）			
教科等	日常生活の指導		
単元・題材名	天気について（新聞やニュースに関心をもとう）		
本時の具体的目標	自然災害や緊急事態等にどのように行動するのが適切なのかを考え，適切な行動を理解することができる。		
	５月６日に茨城県で起こった竜巻被害について知る。 竜巻の発生時に，どのように行動すれば良いか考え，適切な行動を理解することができる。		
前回の授業からの改善点	初回		

過程	学習過程	指導上の留意点 （○支援・☆評価・※留意点）	準備物
導入	1　あいさつをする。		
	2　本時の学習内容と目標を知る。		
展開	3　新聞を見ながら竜巻とは何かを知る。	※車等も巻き上げてしまう竜巻の威力などの恐ろしさを中心に伝える。	新聞 拡大鏡 プロジェクター
	4　竜巻がきたらどのように行動するべきか考える。	○視覚的に理解しやすいように新聞に記載してある被害の状況を拡大鏡をとおしてプロジェクターで映し出す。	
	5　今後，竜巻や台風等の自然現象があった場合，どのように行動するか自分の意見を発表し合う。	○ヒントなどを与えながら考えさせるが基本的に見守り，自分の考えが言えるように必要に応じて支援する。	
	個別の目標 全体…５月６日に茨城県で起こった竜巻被害について知り，このような場合どのように行動すれば良いかを考え，適切な行動を理解することができる。 A…竜巻に近づくのではなく，離れて避難することを理解することができる。 B…竜巻被害についての話を最後まで聞き，竜巻から離れて避難することを理解することができる。 C…竜巻被害について知り，竜巻から離れて避難することを理解することができる。 D…竜巻被害について知り，竜巻から離れて避難することを理解することができる。 E…竜巻被害について知り，竜巻から離れて避難することを理解することができる。 F…竜巻被害について知り，竜巻が起きた時の適切な行動について皆の前で発表することができる。 G…竜巻の恐ろしさを知り，竜巻から離れて避難することを理解することができる。 H…竜巻被害についての話を最後まで聞き，竜巻が起きた時の適切な行動について皆の前で発表することができる。		
まとめ	6　本時の振り返りをする。		
	7　次時の学習内容やこの後の流れを知る。		
	8　あいさつをする。		

反省・気づき等（児童生徒の変容を記入し，次時への改善に生かす-**。）・今回の授業では，新聞での情報が中心となったが，実際に水で渦をつくり，渦の特徴等について知るなどの体験的な活動があれば.良かった。